



糸満、子牛生産がんばってます！



◆拠点産地認定◆

平成 25 年 1 月 22 日、糸満市は県内 7 番目の肉用牛(子牛) 拠点産地として沖縄県より認定を受けました。今回は肉用牛子牛産地としての糸満市を紹介します。



拠点産地認定式

◆肉用牛飼養状況◆

- ・総飼養頭数・・・2,349 頭 (県内市町村 10 位)
- ・子牛生産頭数・・・1,288 頭 (同 8 位)
- ・農家 1 戸当たりの平均飼養頭数
 ・・・40.5 頭 (県平均 25.6 頭)
 (頭数は平成 25 年 7 月発行県畜産課飼養状況調査結果)

◆生産体制◆

糸満市には、市内の肉用牛農家約 50 名で組織された糸満市和牛改良組合があります。日々の生産活動に加え、平成 24 年度から市の事業を活用し、高齢母牛の更新や子牛生産率向上のため、県内外から優良繁殖雌牛を導入する取組みを行っています。また、改良組合には、若い経営者や後継



者からなる青年部(若牛会)があり、共進会運営などの組合活動だけでなく、独自に勉強会を開くなど若い力も活躍しています。

関係機関は、糸満市農業戦略産地連絡協議会の中の肉用牛産地育成専門委員会の構成員となり、定期的に合同で農家巡回し、情報交換および技術的な支援体制の強化を図っています。

◆最近の動き◆

昨年 11 月に開催された第 39 回沖縄県畜産共進会では、種畜部門の肉用牛 4 部門 に糸満市の 5 頭が入賞し、団体賞を受賞しました。



第 39 回沖縄県畜産共進会肉用牛部門団体賞受賞

◆目標達成に向けた取り組み◆

糸満市は産地目標として平成 32 年までに、「飼養頭数 2,807 頭、子牛のセリ出荷頭数 1,108 頭」を掲げています。また、拠点産地認定を契機に、実需者・消費者から信頼される肉用牛産地を目指そう！という機運が高まっています。担い手、生産体制の強化により、今後目標の達成と肉用牛子牛産地としての発展が期待されます。

ストレリチアの立枯れについて

ストレリチアの立枯れが多発しており、被害の拡大が懸念されております。立ち枯れの発生は、圃場の排水不良、未熟有機物の多量施用、台風による根痛みなどが引き金となり、主因となる疫病菌に犯され、枯死するものと見られます。一旦発病した株を治療することは困難なため、予防に重点を置いた耕種的防除に加えて、薬剤による防除を行っていく必要があります。

被害拡大を防ぐために

ストレリチアは元々水はけの良い土壌を好むため、排水不良のほ場では、生育不良を起こしやすくなります。土壌の排水が悪いと、土壌病害の発生を助長しますので、注意するようにして下さい。

未熟有機物の施用は、根痛みをおこしたり、土壌病原菌を増殖させ発病を助長させますので、使用は避けるようにして下さい。

立枯れを拡大させないために

立ち枯れが多発しているほ場の株を他のほ場へ移植などしないようにして下さい。病原菌の拡散、汚染の原因となる可能性があります。

定期薬剤散布の徹底

病気症状(葉の萎れ・変色)が見られた株は、薬剤処理を行っても、回復はしません。そのため症状が見られたら、早期に株を除去するようにして下さい。

病気株の早期除去

罹病株の移植は行わない

未熟有機物の施用は行わない

ほ場の排水対策の徹底

定期的な殺菌剤による薬剤散布は、立枯れ拡散を予防する上で有効ですので、習慣付けるようにして下さい。

病気の症状が見られた株は早期に除去を行って下さい！



1. 発病株



2. 株間にスコップを入れ、除去



3. 残渣はなるべく取るようにする。



4. 処理後は殺菌剤をたっぷりかん注する。

- 立枯れの症状(葉の萎れ、変色)が見られたら、早期に発病している株の除去作業を行う。
- 株を除去するときは、病気株の残渣物はなるべく掘取り、焼却処分する。ほ場内に残さないで下さい。
- 株を除去後、殺菌剤を散布するようにして下さい。

ピーマンの病害虫の総合的防除法の確立と普及

ピーマン産地の病害虫が農薬抵抗性を持ち防除効果が低下しています。また安心・安全な農産物生産を目指すためには、農薬中心の防除から太陽熱土壌消毒と物理的防除を組み合わせた総合的防除法を推進しています。

太陽熱利用による土壌消毒と物理的防除の併用による防除法

1. 太陽熱利用による土壌消毒のポイント

- ①栽培の端境期（休耕期間）の活用（7～9月）
- ②日差しの強い時期（日照度：10～12万lux）
- ③ハウスの密閉（温度：70度前後蒸し込みによる防除）
- ④土壌病害虫の死滅温度の確保（地下深30cmの40℃以上の確保）



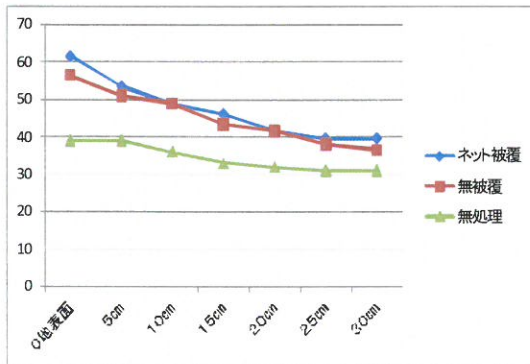
照度測定の様子



陽熱消毒の状況



栽培講習会の様子



各処理区による土壌深さ別温度

病原菌	死滅温度	時間
キュウリ疫病菌	45	10
ウリ類蔓割病菌	60	10
白絹病菌	50	10
菌核病菌	50	10
苗立枯病菌	55	8
トマト青枯病菌	52	10
トマト萎凋病菌	60	10
ナス半身萎凋病菌	50	10
ショウガ腐敗病菌	52	10
ネコブセンチュウ	60	10
ナメクジ類	60	30

土壌中の土壌病原菌死滅温度（九州農試資料より）

2. 物理的防除法の活用の事例

- ①天井のビニールは紫外線カットフィルム使用（害虫の繁殖防止）
- ②側窓、天窓に0.6ミリネット使用及び出入口のネット二重張り（微小害虫の侵入防止）
- ③マルチング（シルバーマルチまたは白マルチの活用）
- ④ハウス周囲への反射シート張り（害虫の忌避効果）
- ⑤ハウス内の青色・黄色の粘着トラップの吊り下げ（侵入害虫の捕殺）
- ⑥ハウス内の緑肥栽培（有機物補給・土壌塩類の除去・土壌病害虫の発生回避）



3. ピーマンの新しい防除体系

- (1) 太陽熱利用土壌消毒とハウス内の蒸し込み
 - (2) 土壌病原菌とハウス内の微小害虫の撲滅
 - (3) ハウス内への微小害虫侵入防止と発生・繁殖防止
 - (4) 紫外線カットフィルム・粘着トラップ（黄色・青色）の利用
- } 苗定植前に病害虫密度を低減させておく
} 苗定植後は病害虫を侵入させない、増やさない

0.6mm ネットの被覆（天窓・側窓・妻面出入口の二層張り）

★農薬中心の防除法から太陽熱土壌消毒・物理的防除法へ移行する。

（園芸技術普及班：金城実秋）

農業生産工程管理 (GAP) とは

農業を継続して行うために「品質が高い農産物を安定して生産したい」「経営を安定させたい」という意識から取り組まれている生産者は多いと思います。

しかし、**持続的に農業を行うためには**、それだけでは不十分です。

長年、地域で一番の生産量を上げていても農作業事故で死亡したり、重傷を負うのはイヤですよ？

「販売額では誰にも負けない！」と言っても、あなたが行う農業生産活動が地域の環境を著しく破壊してはいけません。

もちろん、あなたが作った農産物が消費者の「食の安心・安全」を損なうものであっては決してなりません。

そのような望まない事態を発生させないためには、**農業現場で発生しうる問題を網羅的に想定し、予防策をとる**ことが重要です。

そのためには、農業生産活動を行う上で必要な関係法令や科学的知見等に即して、自らの農業生産活動の各工程（動作）を記録、点検及び評価し、持続的に改善を行うことが必要です。

このような活動が「**農業生産工程管理 (GAP : Good Agricultural Practice)**」です。

「問題に繋がるような農業生産活動はしない」という当たり前のことを、効果的かつ効率的に予防する取り組みです。

さあ、あなたも「不適切な農業生産活動」を無意識に行っていないか自己点検してみましょう！

もし「私の農場で不適正な農業生産活動がないか確認して欲しい」「改善をどこから取り組んで良いかわからない」と言う方がいれば、普及指導員にご相談ください。

【不適切な農業生産活動をしてませんか？】

不適切な農業資材の処分を行っていませんか？



子どもの手が届く所に農薬を保管してませんか？



台風接近前に慌てて農場内の清掃をしていませんか？



知らぬ間に河川に農薬を垂れ流していませんか？



農業機械は安全に使用できていますか？

※以下のURLで、不適切な農業生産活動を見つけるヒント等GAPに関する情報が確認できます！

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/index.html>

カボチャとへちまの共存する産地をめざして

～地域農業振興総合指導事業南風原町山川地域の取り組み～

1. 事業概要

本事業は、地域の農業に関する課題を地域の実情に応じて解決し、豊かな地域社会づくりを推進することを目的として平成 25～27 年度までの 3 年間、南風原町山川地域を対象に実施しています。山川地域では平成 22～24 年度にも実施されましたが、集落ビジョン作成を通して推進委員や関係機関から地域農業振興への支援要望があり、平成 25 年度より再度継続して実施しているところです。現在、県内一の生産量を誇る「へちまの安定生産」を目標に取り組んでいます。

2. 事業の取り組み内容



事業推進会議 (年 2 回開催)



展示ほ現地検討会



山川農業だより (年 3 回発行)



へちま出荷状況市場視察研修



関係機関での定期巡回指導



へちま料理試作・講習会



へちま料理 (4 品)



へちま販売促進会支援



集落リーダー研修

3. 今後の取り組みについて

事業初年度の平成 25 年度は、へちま栽培の産地育成に取り組まれました。産地育成の一貫として、南風原町では『はえばる美瓜 (びゅうりー)』というブランド名称で販売促進に取り組んでいます。また、生産者は冬春期の安定生産を目的に施設での立体栽培も始まっており、年間を通したへちまの安定生産による所得向上に期待が寄せられています。今後も地域農業の活性化のため、地域の自主的な活動を促進しつつ、農業生産の振興を総合的に支援していきます。

(普及企画班：宜保敬也)



南部地区農業青年クラブって何やってるの？ ～活動から自身の営農に活かすの巻～

南部地区農業青年クラブとは、40歳以下の就農者30名で構成され、南部地区の農業青年同士連携を図り、新しい知識と技術の修練に努めると共に、健全な発展を図ることを目標に結成された組織です。具体的な活動は、視察研修・受入、交流会、販売促進活動、研修会、定例会、総会です。

今年度の活動実績

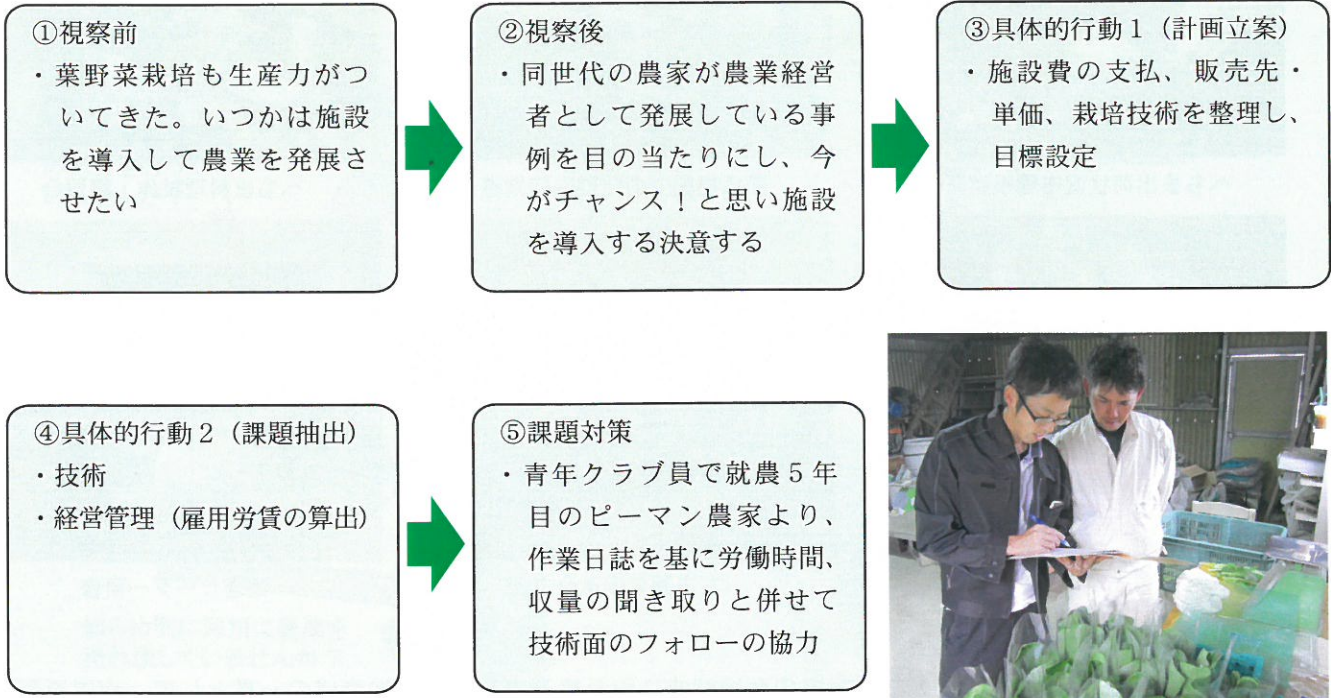
平成25年11月21日にレインボーホテル（那覇市）で開催された沖縄県青年農業者会議プロジェクトの部で、南大東村農業青年クラブは「農業青年クラブによるさとうきび補植技術の検証」と題した発表を行い、

最優秀賞を獲得しました。次年度大分県で開催される九州・沖縄青年農業者会議に沖縄県代表として出場予定です。なお、南部地区農業青年クラブはプロジェクト発表の部3連覇を達成しています。



クラブの活動から営農発展していくFさんの事例を紹介（視察編）

Fさんは南風原町で主に葉野菜を生産している就農3年目の農業青年で、地区農業青年クラブ員として組織活動も積極的に参加しています。平成25年9月11～13日に開催された八重山地区視察研修参加後、前から燻っていた「施設栽培への憧れ」が大爆発！実践する決意に変わりました。現況の露地野菜に2,000m²のハウスを導入し、ピーマン栽培を行い、経営の安定と向上を目指すことを決意しました！



計画作成後、彼は言いました。「これは机上の数値。これを目標にもっとがんばりますよ」自身の農業に没頭しながらも視野を広く持ち新たな情報を得て、それを実行する姿はまさに農業青年クラブ員の鑑です。

おきなわ花と食のフェスティバル 2014 にて南部地域から多くの農家のみなさまが表彰されました！

平成 26 年 2 月 1 日 (土) ~ 2 日 (日) に奥武山公園にて「おきなわ花と食のフェスティバル」が開催されました。各園芸品目の品評会にて南部地域から多くの農家のみなさまが受賞されました。

野菜品評会では、サヤインゲン、トマト、ピーマン等多くの品目から出品があり、金賞となる各賞 14 点中 8 点を南部管内の生産者が受賞しました。出品野菜は、品質・形状が良く、野菜産地としての生産農家の技術の高さを認識させるものでした。花き品評会の今年度出品点数は 455 点で、昨年度に比べ大きく増加しました。南部地域からは金賞 7 点 (内特別賞 4 点) の受賞があり、南部地域ならではのストレリチアやバラ、デンファレからの受賞もありました。受賞された農家みなさまおめでとうございます。

第 24 回野菜品評会受賞者名簿	受賞者	品目名	市町村
沖縄県知事賞	大 城 善 徳	さやいんげん	南城市
沖縄県議会議長賞	當 間 栄 吉	きゅうり	八重瀬町
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長賞	安谷屋 健 治	にんじん	糸満市
沖縄県市長会長賞	金 城 哲 夫	ちんげんさい	那覇市
沖縄県農業協同組合中央会会長賞	松 田 祐 樹	ハーブ (バジル)	糸満市
沖縄協同青果株式会社社長賞	大 城 勝 也	トマト	豊見城市
沖縄県農業共済組合組合長理事賞	賀 数 盛 勝	さやいんげん	八重瀬町
沖縄県青果物流通協議会会長賞	大 田 洋	ピーマン	八重瀬町
	長 嶺 達 也	トマト	豊見城市
	瀬 長 清	ミニトマト	豊見城市
	大 城 昌 栄	きゅうり	糸満市
	東 江 正 春	中型ピーマン	八重瀬町
	津波古 充 治	キャベツ	那覇市
	神 谷 朝 誠	ちんげんさい	那覇市
	赤 嶺 孝	ハーブ (バジル)	那覇市
	志喜屋 敏 雄	クレソン	南城市
	金 城 俊 夫	トマト	豊見城市
	安谷屋 重 信	ミニトマト	豊見城市
	島 克 行	大型ピーマン	八重瀬町
	国 吉 正 治	なす	豊見城市
	仲 里 智 彰	さやいんげん	南城市
	神 里 英 明	さやいんげん	八重瀬町
	當 間 栄 吉	たまねぎ	八重瀬町
	幸 地 豊	モロヘイヤ	糸満市
	玉 城 直 也	葉にんにく	糸満市



第 24 回野菜品評会受賞者名簿	受賞者	品目名	市町村
沖縄県知事賞	兼 城 朝 信	小ぎく	八重瀬町
内閣府沖縄総合事務局長賞	安 村 敏 秋	小ぎく	久米島町
一般財団法人沖縄美ら島財団理事長賞	大 城 一 義	デンファレ	南風原町
沖縄県農業共済組合組合長理事賞	大 城 修	バラ	豊見城市
	兼 城 朝 範	小ぎく	八重瀬町
	前 森 栄 徳	小ぎく	八重瀬町
	宮 平 翼	小ぎく	南城市
	金 城 俊 治	ストレリチア	南風原町
	金 城 政 則	トルコキキョウ	那覇市
	金 城 亀 助	ハマユウ	南城市
	兼 城 光 子	小ぎく	八重瀬町
	喜 納 賢	小ぎく	八重瀬町
	仲 間 幸 一	小ぎく	八重瀬町
	前 森 栄 太 郎	小ぎく	八重瀬町
	嘉 数 直 之	ダリア	那覇市
	兼 城 朝 範	小ぎく	八重瀬町
	桃 宇 輝	小ぎく	八重瀬町
	喜 納 和 子	小ぎく	八重瀬町
	仲 間 健 哉	小ぎく	八重瀬町
	我那覇 智 和	小ぎく	八重瀬町
	盛 田 浩 良	小ぎく	八重瀬町



第 24 回野菜品評会受賞者名簿	受賞者	品目名	市町村
沖縄県農業協同組合代表理事長賞	玉 城 瑠 美 子	パッションフルーツ	糸満市
沖縄協同青果株式会社社長賞	宮 城 光 雄	スターフルーツ	南風原町
優良賞	金 城 美 隆	パッションフルーツ	南城市

((園芸技術普及班：座喜味利将))

新規就農者の紹介

がんばれ！ NEW ファーマー 新技術を使って新規就農！

—南城市—

南城市の玉城篤さん（24歳）を紹介します。玉城さんは平成25年9月から就農を開始しました。10aのハウスで、サヤインゲンのジベレリン処理による長期栽培を行っており、価格の安定しているJA買取で出荷しています。夏はハウス横の露地でオクラを栽培する予定です。

玉城さんがサヤインゲン生産農家になろうと思ったのは、農業研究センターの非常勤職員の時に、サヤインゲンのジベレリン処理研究の手伝いをしたのがきっかけだそうです。

現在サヤインゲンの草勢の維持を頑張っているそうです。「5月中旬までは出荷したいので草勢の維持に気を付けている」とのことです。

悩みは病害虫対策が後手後手になってしまうことと、サイズを小さく収穫してしまうとさやが市場で萎びてしまうことだそうです。

まじめでこつこつと農作業に取り組み、JAの勉強会にも頻繁に顔を出しています。仲間の生産農家は場

にも行き来し情報の交換を行っています。

将来は、規模を拡大して儲かる農家になりたい、そのためには、早めに栽培技術を身につけたいと話しています。



(普及企画班：金城衣恵)

農家紹介

～ マンゴーづくりに捧げる第二の人生 ～ 石崎亮・陽子さんご夫妻

—南城市—

南城市玉城で1,500坪のマンゴーを営む石崎亮・陽子さんご夫婦。亮さん（38歳）は、3年前にコンピューター関連の会社員から転身し、マンゴー栽培を始めました。これまで農業経験は無く、県立農業大学校に入学して1年間マンゴーの栽培技術を学びました。

現在、JAおきなわ玉城支店果樹生産部会、南城市フルーツ研究会、日本熱帯果樹協会、南城市農業青年クラブ等様々な組織に加入し、積極的に農業の技術向上に努めています。

「農業は、定期的な休みが無くて大変だけど、自分のマンゴーを買ってくれた方々がリピーターになってくれたり、お客様の感謝の言葉を聞くとやりがいを感じる。」と充実した表情で話されていました。

また、「将来は、面積を4,500坪まで拡大し、他の果樹も取り入れたい。食品加工にも取り組み、6次産業化を目指したい」と意気込みを語ってくれました。大きな目標に向かって、夫婦2人3脚で頑張っています。



(園芸技術普及班：野原正司)